

<p>1 学校教育目標</p> <p>賢く 優しく たくましい 生徒の育成 ～地域とともに、9カ年の学びをとおして～</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>① 地域とともにある学校づくり ② 確かな学力 ③ 豊かな心の教育 ④ 安全で安心な学校づくり ⑤ 業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>
---	---

3 目標・評価						
① 地域とともにある学校づくり						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●志を高める教育	「小中一貫教育」の推進	・小中連絡会を開催して、小中合同による学校行事などの工夫や改善を図る。 ・小中教員の相互乗り入れ授業や交流授業を継続し、小中の見通しをもち授業実践をすすめる。	・行事が活性化するように、打ち合わせ時間を計画的に設定する。 ・小中の教務主任の連携を密にとり、事前に計画を立てて相互乗り入れ授業の実践を工夫する。 ・行事の目的や目指す児童生徒像についての共通理解を図り、詳細な計画を立てる。	校内研究	江口・坂本
		つながりを大切にし、郷土愛を育む「吉田学」等の推進	・総合的な学習「吉田学」のカリキュラムに基づく実践をし、カリキュラムをよりよいものにする。 ・地域と連携したボランティア活動への参加生徒数を全校生徒数の60%以上にする。 ・ESD(Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育)を基盤とした国際交流・国際貢献を推進し、8月に外国教師との交流会をもつ。	・「吉田学」を実施する際に、地域人材を活用する。 ・地域から学ぶだけでなく、地域に還元する活動を取り入れる。 ・地域ボランティアに参加しやすいように、部活動等の配慮をする。 ・外国教師との交流会を通して、ESDについて理解を深める。	総合的な学習	白濱・杉光
② 確かな学力						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力向上	「吉田メソッド」の深化	・「吉田メソッド」による深まりのある授業を展開する。 ・指導方法の工夫・改善に取り組むために、全教職員が1回は公開授業を行う。	・指導者が「①相手意識・目的意識をもった課題設定 ②思考を深める「考える」「伝え合い」 ③視点を示した「ふり返り」を意識した授業を行う ・小中一貫カリキュラムを常に意識した授業づくりを行う。	学力向上	杉光・江口
		基礎・基本の定着を図る個別指導	・個のつまずきを把握し、TTを有効活用しながら個に応じた指導・支援を行う。 ・知識や技能を活用しながら課題解決する学習展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ・「木曜タイム(朝の小テスト)」を毎週木曜日に実施し、全校生徒の到達度の平均90%以上を目指す。 ・小中共通した「家庭学習強化週間」を年間3回実施し、家庭学習への取組の充実を図る。 ・全校生徒の自主ノート提出率の平均を90%以上にする。	・教師間の情報交換を密にして個の実態を把握し、適切に指導・支援ができるようにする。 ・教材プリントの作成に当たっては、活字力の向上を目指す内容を1回は取り入れるようにする。 ・昨年度に引き続き「振り返りシート」を活用し、取組内容の把握を徹底するとともに、生徒の学習意欲の向上に努める。 ・毎日、自主学習ノートの点検を行い、家庭学習の習慣化を図る。	学力向上	坂本・木原
③ 豊かな心の教育						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	道徳教育及び人権・同和教育の推進	全教職員で人権・同和教育に取り組み、生徒が豊かな人権意識と差別、人権問題についての正しい知識を身につけ、互いの人権を尊重して生活を送り、差別を無くしていく態度と力をのばしていく	・人権教室や人権学習集会の定期的開催。 ・生徒会人権宣言、人権標語等の作成を通して、生徒を主体とした人権尊重の取り組みの推進。 ・各学年毎の人権学習や部落問題学習を通して確かな人権意識を育む。	人権・道徳	雅中野恵・中野
	●いじめ問題への対応	いじめの未然防止と早期発見	・意識調査で、生徒・保護者のいじめのない学校というプラス評価80%以上をめざす。	・アンケートを月1回実施し、情報を共有しながら予防的関わりや早期発見、早期対応に努め、教育相談を適宜行っていく。 ・Q-Uを実施し、生徒の学校生活の状況を個別に把握することで、要支援生徒に対して日常的な支援を行う。 ・保護者との連絡を密に行うなど、小さな情報を見逃さないよう家庭・地域・関係機関との連携を強化する。	生徒指導	中野雅・白濱
④ 安全で安心な学校づくり						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○個に応じた支援	一人一人のニーズに応じた特別支援教育・教育相談の充実	・全職員による生徒理解と個々に応じた支援体制の確立するために、毎月生徒理解の連絡会を持つ。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、家庭及び特別支援学校や専門機関との連携を図る。	・職員会議等で支援を要する生徒の共通理解を図り、全職員が対応できる環境をつくる。 ・特別支援委員会、ケース会議など必要に応じて開催し、早期の対応を図る。 ・巡回相談の活用、スクールカウンセラーとの積極的な連携を図る。	特別支援教育	山口・杉光
	●健康・体づくり	健康・安全教育的推進	・保健、給食、食育指導の充実を図り、自己管理能力を高める。 ・朝食喫食率を100%にする。 ・危機回避能力を高める避難(防犯)訓練や学習会、防災教室を企画実施する。	・個別の健康観察を実施し、基本的な生活習慣の改善を図る。 ・食育だよりの発行、内容充実を図る。 ・避難訓練等の際に防災教育を実施できるように担当者を中心に準備する。	安全食育	秀島・北村
⑤ 業務改善・教職員の働き方改革の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	衛生管理の改善、充実	・職員の業務改善に対する意識を高め、教諭等の時間外勤務時間を昨年比10%以上削減する。 ・年3回(6月、9月、12月)ストレスチェックを行い、働きやすい職場環境を目指す。	・業務記録表をもとに職員の時間外勤務時間を確実に把握するとともに、特定の職員に業務が集中しないようマネジメントを行う。 ・定期的なストレスチェックにより、職員の内面の変化を把握するとともに、常に職場環境の改善を図る。	管理	教頭・橋本

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目